

研修報告書 No. 1

所 属： 大阪医科大学附属病院

氏 名： 西居 智信

研修先： 土佐市立土佐市民病院

2020年7月6日から7月31日まで1か月間、土佐市民病院で研修させていただきました。また、地域の2つのクリニックで地域医療に訪問診療に同行・見学しました。また、特別養護老人ホームとさの里では介護の現場にて導入されている介護機器の使用の体験、高知での介護での実態などを教えていただきました。

土佐市は、高知市に隣接した人口2万7千人の地方都市で高齢化率は37.4%と高齢化が進んでおり、将来の高齢化の進んだ日本のモデルとして現在注目されている地域であります。高齢化地域での医療は限定された医療資源を効率的に活用していく必要があるため、その在り方は未来の医療の姿を反映していると考えられています。

土佐市民病院は急性期病棟96床、地域包括ケア病棟54床を合わせた150床を有し、土佐市地域の中核病院として機能しています。診療科は25科と充実しており、各職種が自立して積極的に連携しており、柔軟な対応が可能となっています。研修医業務としては、外来、病棟業務、健診説明、救急対応、各種検査を行いました。外来業務では、大学病院の研修医生活では普段メインでは診療しないようなcommon diseaseである感冒、高血圧症、高脂血症などを診療し、継続的な処方や生活習慣指導を行いました。しかし、中には食事摂取困難になるまで衰弱した高齢の患者さんを診療し入院加療となる方や、腹痛から胆嚢炎と診断し他病院へ紹介することもありました。上級医の先生に密に報告、連絡、相談を行うとはいえず、自身で患者さんの治療や処方をアセスメントしていくことはあまり経験がなかったため、非常によい経験を積むことができたと感じています。外来業務は基本的に午前中に行いますが、木曜日には小児科外来、金曜日は外科外来での研修を行い、小児科外来ではワクチン接種や感冒の診断といった外来業務から小児救急を通じて救急医としての視点のレクチャーを行っていただいたりしました。外科外来では、抜糸、縫合を行ったり、手技的なレクチャーを随所で行っていただきました。検査では、心エコー、腹部エコー、上部内視鏡検査、下部内視鏡検査の見学を行いました。エコー検査は普段救急外来で使用する他では検査結果を見るだけであったため、実際に検査を見て触ることができ有意義な経験となりました。

土佐市民病院近隣の2つのクリニックでは外来見学だけでなく、訪問診療に同行しました。訪問診療では普段の経過を見たり、生活上のアドバイスを行っていました。老人ホームや障がい者施設にも訪問し、入居者の健康状態の把握を行い、職員さんと今後の生活などの対応を協議しました。どの患者さんも満足しているような雰囲気があり、在宅診療の需要は高く、今後拡大していくものであると思いました。

特別養護老人ホームとさの里では、介護機器が非常に充実しており、職員の健康なくして利用者の健康は守れないという考え方があり、職員の介護負担を軽くするために多くの介護機器が導入されていました。しかし、介護職員の負担軽減は機器だけにあらず、より効率的な物品の配置、動線の見直しなど積極的な改革が何度も行われておりました。介護は腰痛が非常に多く、力仕事が多いと考えておりましたが、とさの里では効率的な機器の導入でほとんど力仕事はなくなっているとのことでした。私は以前違う介護施設で研修を行いました。このことは違い力仕事が多く介護負担が大きかったため、とさの里は先進的な介護施設であると思いました。

今回の地域医療研修を通してより患者さんに寄り添って医療を行うことができたことはこれからの医師人生において大切な価値観を得たと思いました。土佐市民病院で研修できたことを心から嬉しく思います。ありがとうございました。